名桜大学紀要，(20)：15-28（2015）

【学術論文】

日本人中国語学習者の誤用とその教授法・中国語の教科書の問題点について
—— 可能・可能性を表す助動詞“能”と“会”を中心に ——

Misuses of the Potential Auxiliary Verbs “能” and “会” by Japanese Students of the Chinese Language and Teaching Methods and Textbooks for Resolving the Problem

松　田　春　奈

要旨

本稿は中国語の可能・可能性を表す助動詞“能”と“会”の使い分けによる誤用とその教授法に焦点を当てて検討したものであり，日中両言語の可能・可能性表現を比較検討することで，“能”や“会”の欠落による誤用が生じる原因について考察を試みようとするものである。

可能・可能性を表す助動詞“能”と“会”による誤用の原因は，現在通用している文法書の“能”と“会”に対する記述方法が，学習者のより良い理解を促すには充分でないこと，そしてVR構造との関連性に言及していないことの２点があげられる。加えて，教授する側の“能”と“会”に対する扱いも関係している。

助動詞“能”や“会”の欠落の起因に関しては，以下の３つが考えられる。

１．補語
２．現在法で表す可能・可能性表現
３．条件文の主節

これらの中国語教育の実態と可能・可能性を表す助動詞“能”と“会”を教授する際の課題をふまえ，まず日中両言語の可能・可能性表現を概観するために２章にて両言語の異同について言及した。３章より助動詞“能”と“会”の使い分けによる誤用の原因解明と教授法について扱い，４章にて“能”や“会”の欠落の起因について考察を進めたい。

キーワード：助動詞，可能表現，誤用，教授法

Ⅰ　はじめに

本稿は，日本人中国語学習者の助動詞“能”と“会”の欠落による誤用に焦点を当てて考察を試みるものである。本稿の研究対象である中国語の可能・可能性を表す助動詞の正しい使い方は，中国語学習者にとって比較的難しい問題であり，すでに郭春貴（2001）『誤用から学ぶ中国語』や呂才楨他（1986）『日本人の誤りやすい中国語表現』の誤用集にて言及されている。

周国龍（2014）「可能表現「会」と「能」の使い分けについて」では，可能表現で中国語においても日本語においても，文脈が非常に大事な要素になっている。と述べた上で，中国語と日本語の違いを以下のように挙げている。

中国語：文脈の違いによって「会」と「能」の使い分けが必要である。

日本語：可能表現の形式には数種類あるが、いずれも同じように使え、文脈による使い分けは見られない。

従って，「会」と「能」を正しく使い分けをするためには「会」と「能」の意味、そしてその文脈を正確に理解しなければならない。と言及している。

一般的に中国語学習者の可能・可能性を表す助動詞の誤用の内，最も比重が置かれるものは，“能”や“会”の使い分けによる誤用であり，次にあげられるのが“能”や“会”の欠落を誤用とするものである。

これまで,日本における中国語教育には,“能”と“会”に使用上の違いが存在するといった日本語の「～できる」には無い，独特な性質をもつことに過度に重きを置き教授してきた傾向がみられる。後にも言及するが，この点に関しては現行の教科書の記述を見れば明白である。“能”や“会”は，実際には未来の可能・可能性を表す場合が多いのだが，この点を看過し中国語教育の中で言及しなかったことにより日本人中国語学習者の“能”や“会”の欠落による誤用が生じたものと考えられる。この教授上における問題点を踏まえながら検討を進めたい。

先に，“能”や“会”の使い分けと欠落による誤用の原因について概観するため，前者の“能”や“会”の使い分けによる誤用例をみてみたい。

（例１）≪作例≫
　わたしは中国語が話せる。
＊我 能 说汉语。
　我 会 说汉语。

上記の例文は，発話者が中国語母語話者でない場合に，中国語を話せない非母語話者が習得して話せるようになったことを表すため，もともとその能力があってできるという可能を表す“能”を使ってしまえば非文となる。よって“会”を使う必要がある。

また，以下の例文のように，身体的条件，例えばアレルギー体質により食せない場合や生ものを好まない人物が刺し身を食べることができない場合には，習得してできるという可能を表す助動詞“会”を使うことはできず非文となる。

（例２）≪ステップ バイ ステップ≫[1]
　刺し身は食べられますか。
＊生鱼片，你 会 吃吗？
　生鱼片，你 能 吃吗？

では，後者の助動詞“能”や“会”の欠落を誤用とするものの例を以下でみてみたい。

（例３）≪一歩≫[2]
あなたは中国語の放送がきいてわかりますか。
＊你 ＿ 听懂 中文广播吗？
　你 能 听懂 中文广播吗？

この例文は，述語が「動詞＋結果補語」の構造で構成されており，この「動詞＋結果補語」の構造が結果だけでなく可能までを表すものであると日本人中国語学習者は認識してしまうため助動詞“能”や“会”の欠落が起こるのである。

さらに，つぎの例をみてみたい。

（例４）≪1Q84≫[3]
　何が起こるか予測がつかない。
＊究竟 ＿ 发生什么事，无从预见。
　究竟 会 发生什么事，无从预见。

このような現在法で表す日本語の可能性表現を中国語で表現する際に助動詞“能”や“会”の欠落による誤用が多くみられる。

以下の例文は日本語と中国語の条件文における差異が助動詞“能”や“会”の欠落による誤用を招いている例である。

（例５）≪病句分析≫[4]
私たちが努力して学べばきっと中国語のレベルはあがる。（筆者訳）
＊只要我们努力学习，就一定 ＿ 提高汉语水平。
　只要我们努力学习，就一定 能 提高汉语水平。

これらの可能を表す例文は,全て助動詞“能”や“会”を必要とするものである。中国語の助動詞“能”や“会”の誤用例を並べ，それが誤用であることを指摘している文献は郭春貴（2001）『誤用から学ぶ中国語』や呂才楨他（1986）『日本人の誤りやすい中国語表現300例』など数多くみられるが，“能”や“会”の欠落の原因・背景等を詳しく解説したものはあまりみられない。本稿では盧濤（2006）「汉语助动词使用错误分析」と佟慧君（1986）『外国人学汉语病句分析』を参考に,また両論文と『1Q84』村上春樹（2009）等から日本人中国語学習者が犯してしまいがちな例文を選出したのち，中国語の可能・可能性を表す助動詞“能”や“会”，それに対応する日本語の可能・可能性表現を比較検討し，日本人中国語学習者の“能”や“会”の欠落の起因について考察を試みようとするものである。

また，現在通用している文法書の分析を通して中国語教育における助動詞“能”と“会”の教授法の問題点を探る。さらに，大学において６ヶ月間の中国語の学習歴をもつ学習者54名を対象に事後テストを行い，“能”と“会”の使い分けや欠落による誤用の起因と有効的な教授法について探求した。被験者の数が60人未満と少ないため，今後更に被験者を増やすことで，本考察が最終的には日本人中国語学習者の助動詞“能”や“会”の使い分けや欠落による誤用の起因とその有効的な教授法の探

求を目指したものであることを付け加えておきたい。

Ⅱ　日中両言語の可能・可能性表現

1　日本語の可能表現

日本語の可能表現について，『新版 日本語教育事典』(2005) では，「可能文とは，動きの主体が動きを意思的に行おうとする場合，その動きを実現することが可能かどうかを述べる文である。」とし，「現代標準語では，動詞の活用タイプによって相補分布をなす，述語形式によって表される。」として以下の（1）～（3）の３つの類に分類している。本稿の研究対象は，下記（1）～（3）の可能表現の分類に（4）の可能を表す自動詞を加え，さらに（3）のサ変動詞:補充形「できる」には，『日本語教育事典』(1982) の「修飾節＋こと＋できる」の形を加えて以下の４類の大類に分類し，本稿の考察の対象とする。

【1】五段動詞：可能動詞（「読める」など）
　例）漢字が読める。
　　彼は300m泳げる。

【2】一段動詞･カ変動詞:未然形＋助動詞「られる」（「見られる」など）
　例）遠くのものも見られる。
　　簡単に組み立てられる。

【3】サ変動詞：補充形「できる」（「勉強できる」など），「修飾節＋こと＋できる」
　例）彼は中国語ができる。
　　図書館で勉強できる。
　　ミツバチははちみつを作ることができる。
　　どんな質問にも答えることができる。

【4】可能を表す自動詞（「見える，聞こえる，分かる，入る，要る」など）
　例）窓から富士山が見える。
　　難しい問題が解ける。

次章にて，中国語の可能表現について整理していく。

2　中国語の可能表現

中国語の可能表現は，『现代汉语八百词』增订本 (1999) や『实用现代汉语语法』(1983) では，助動詞“能”に“能力，用途，客观条件，善于（堪能），可能，估计（推量），愿望（望み），许可，祈使（命令）”など多くの語義を与えている。また，许和平 (1993) は“能”と“会”を比較して，“能”の表す能力の範囲は“会”の表す能力の範囲より広いとし，“一般性機能”，“具体機能”，“体能（身体機能）”，“効能”に分類できるとした。

例）

“一般性機能”	他能走钢丝。 彼は綱渡りができる。(筆者訳)
“具体機能”	他一天能走50公里。 彼は一日に50キロメートル歩ける。(筆者訳)
“体能”	他病好了，能走了。 彼の病気は良くなったので歩けるようになった。(筆者訳)
“効能”	这辆汽车能坐60个人。 この自動車は60人乗車できる。 (筆者訳)

このように，助動詞は表す可能・可能性の種類によって，ある程度の使い分けが可能であり，“能”と“会”の一般的な意味範囲と使い分けは，以下のように定義付けできる。

[能]
能力的条件が備わって事物の実現の可能･可能性を表す。つまり元々ある能力によってある事物の実現の可能を表す。

[会]
これまで成し得なかった何らかの技術･能力を習得して，事物の実現の可能・可能性を表す。

原則，上記の分類に従えば“能”と“会”を使い分けることができる。このように中国語の可能を表す助動詞“能”と“会”それぞれに意味範囲が存在するように，助動詞で可能・可能性を表現する際，その文が示す具体的な意味，つまりある事物を可能にする能力的条件や性質的条件などの意を組み込んだ表現をする必要があるため，その具体的な可能・可能性の意味を念頭に置き，その条件に合った助動詞を選ばなければならないのである。更に中国語の可能・可能性表現の形式には，助動詞による表現と，補語による表現の２つのタイプが存在する。

３　中国語の可能・可能性表現の特徴について

本稿の研究対象である可能・可能性表現は，刘月华(1990)「可能补语用法研究」や，刘月华（1983)『实用现代汉语语法』等で詳しく分析されており，さらに，安本真弓（2009）では，現代中国語における可能表現について丹念な意味分析がなされている。中国語と日本語の可能・可能性表現を比較してみると，日中間でその表現方式に差異が生じていることがわかる。まず，中国語に関しては未来の事柄の可能・可能性を表す場合に助動詞“能”や“会”を述語に付随させるか，“了”を用いなければならないということが挙げられ，次に中国語には日本語にはない特有の補語が存在しており，この補語の存在が可能・可能性表現に大きく関係しているということが挙げられる。

１）補語形式（補語による可能表現）

上述の通り，中国語には助動詞のほかに補語による可能表現がある。日本語の中には中国語の補語に直接対応するものは存在せず，動詞の前に位置する一部の連用修飾語成分が，その役割を担っている。補語による可能表現は比較的複雑であるため，日本人中国語学習者にとって，とりわけ習得困難な問題である。刘月华（1982）では中国語の可能補語について以下のように記述している。

可能补语有三种：一，“得／不＋结果补语／趋向补语”构成的，叫Ａ类可能补语；二，由“得／不＋了（liao)”构成的，叫Ｂ类可能补语：三，由“得／不得”构成的叫Ｃ类可能补语。

可能補語には３タイプある。一，“得／不＋結果補語／方向補語”で構成されているＡ類可能補語。二，“得／不＋了（liao)”で構成されるＢ類可能補語。三，“得／不得”で構成されるＣ類可能補語である。(筆者訳)

使用例は上記のＢ，ＣよりＡが多いことはこれまで指摘されてきており，これら「得／不＋結果補語／方向補語」の形式の可能表現使用率が高いことから，可能補語と結果・方向補語は不可分の関係であることがわかる。結果･方向補語によって表される事態が実現しているか，あるいは実現するか否かという可能性・蓋然性を表しているものが可能補語である。

４　日中両言語の可能・可能性表現の異同

日中両言語の可能表現の異同について，まず両言語の可能表現を比較するため日本語の可能表現を整理したい。日本語の可能表現で日常的に用いられる用法としては，以下の４つが挙げられる。

①できる
②可能動詞　例）読める　歩ける　書ける
③－られる　例）見られる
④可能を表す自動詞　例）みえる　聞こえる　わかる　要る

中国語の可能表現に関しては“会”のような可能動詞が存在するが，極端に少ない。

（例６）
他会汉语。≪八百词≫[5]
彼は中国語ができる。

中国語は可能動詞の代わりに“能”や“会”等の助動詞と動詞の組み合わせにより可能・可能性の意を表しているということに注意しなければならない。中国語の可能表現については，上述の通り中国語の可能・可能性表現は「助動詞による可能」と「補語による可能」の二類に大別できるが，助動詞には“能”や“会”の２類があり，さらにこれら２つの「助動詞＋動詞＋補語」の形で可能･可能性を表せる場合，可能補語構造のみで可能・可能性を表せる場合が存在する。日本語の可能表現と比較すると，中国語の可能表現の形式はより複雑であり，非常に分析的に可能を表現しているといえる。

ここでは日本人中国語学習者の助動詞の欠落について分析を進めるため，便宜上，中国語の可能・可能性表現を以下の３類に大別する。そしてこれらを本稿の考察対象である助動詞の“能”や“会”，それぞれに組み合わせて以下の6種に分類する。

ⅰ　“能”＋動詞
　　“会”＋動詞

ⅱ　“能”＋動詞＋結果補語
　　“会”＋動詞＋結果補語

ⅲ　“能”＋動詞＋方向補語
　　“会”＋動詞＋方向補語

日中両言語の可能性表現の異同について，まず日本語の可能性表現に関しては，現在・未来で「ル形」の形を取り未来の可能性を表すことができるということがよく知られている。日本語の可能性を表す表現には「…だろう」や「…でしょう」などの有標識の表現が挙げられる。以下の例をみてみたい。

例）
目的地に着くには時間がかかるだろう。
この汚れは洗剤で洗えば落ちるはずだ。
この薬を飲めば一週間で治るでしょう。

また，日本語の可能性を表す表現には以下の例のように述語動詞の「ル形」のみで，つまり言い切りの形で表される無標識の表現が存在する。

例）
日曜日には時々そういうことが起こる。
この方法では終わるまでにかなりの時間がかかる。
彼はいつも決まった席に座る。

一方，中国語は日本語のように現在・未来で可能性を表現することができず，未来の可能性を表す場合には助動詞“能”や“会”を動詞の前に加える必要がある。先にも述べたように“能”は現在･未来を表せるのに対し，“会”は原則，未来の事柄を表す傾向にあり，未来の可能性を表す場合も“会”を用いる傾向が比較的高い。
次節より日本人中国語学習者の“能”と“会”の使い分けによる誤用の起因について検討していく。

Ⅲ　“能”と“会”の使い分け

既にⅠで述べたように，日本人中国語学習者の可能・可能性を表す助動詞の誤用でよくあげられるのは“能”と“会”の使い分けのミスによるものである。両者の使用上の違いを簡単に整理すると“能”が「(もともとその能力があって) ～できる」を表すのに対し，“会”は「(できなかったことが習得して) ～できる」という可能を表す。

1　“能”と“会”の使い分けによる誤用の起因

“能”と“会”の使い分けによる誤用の決定的な起因は，現在通用している文法書の“能”と“会”の扱い方であると考えられる。
以下で一部の文法書の実例をみてみたい。

『中国語明明白白』東方書店　2001.2.28　荒川清秀・張筱平著
助動詞の“能”「～できる，～だろう」p48（日文:筆者訳）
1）你能参加明天的会吗？
明日の集まりに参加できますか。
―能。
―できます。
2）这种蘑菇有毒，不能吃。
このキノコには毒があるので食べられません。
3）这个人很能说。
この人は口が達者だ。
4）下雨了，他能来吗？
雨が降ってしまったけど彼は来られるだろうか。

“会”「(習い覚えて) ～できる，～がうまい，～だろう」p60（日文：筆者訳）
1）你会说汉语吗？
あなたは中国語が話せますか。
―会。
話せます。
2）我会说英语，不会说德语。
わたしは英語を話せますが、ドイツ語は話せません。
3）幸子很会买东西。
幸子さんは買い物上手です。
4）他今天会来吗？
彼は今日来られますか。
―这么晚了，他不会来了。
もうこんな時間だから来られないだろう。
你放心，他一定会来的。
大丈夫、きっと来られるよ。

『中国語明明白白』では“能”と“会”を個々で扱っており，更に“能”には助動詞と明記しているが，“会”にはその記述がない。また，“会”には習い覚えてという使用上の違いを明記しているが，“能”には何の記載もなく両者を見比べても，一見にして使用上の違いを知ることはできないのである。さらに着目すべき点は，“能”を第７課p48で扱い，“会”を第９課で扱っていることである。同じ意味を表すが使用上に違いのある２つの助動詞を別の課で教授してしまえば，学習者はその違いに気付くことはできない。
続いて，下記の文法書の例をみてみたい。

『さぁ，中国語を学ぼう！会話・購読』白水社　2015.3.1　竹島毅・趙昕著
助動詞（2）―“会”　p63（日文：筆者訳）
“会”＋動詞（＋目的語）（〈習得して〉～できる）
她会说英语。　　彼女は英語が話せる。
我不会游泳。　　わたしは泳げない。
▶“会”は主として技術的なもの（語学やスポーツなど）について使う。

助動詞（3）―“能”・“可以”　p69（日文：筆者訳）
“能”＋動詞（＋目的語）（〈能力的･条件的に〉～できる）
他能看中文杂志。　　彼は中国語の雑誌を読める。

她有事儿，不能来。　彼女は用事があって来られない。

“可以”＋動詞（＋目的語）（〈許可〉～してよい，～できる）
这儿可以游泳。　ここで泳いでよい。
车里不能打电话。　車で電話をしてはいけない。

『さぁ，中国語を学ぼう！会話・購読』でも“能”と“会”を個々に扱っており,“能”と“可以”を同時に扱っている。可能・可能性を表す助動詞“能”・“会”・“可以”のうち，最も使い分けが容易なものは，“可以”である。“可以”は多くの場合，許可（～してよい）を表すため、ほかの可能（～できる）を表す“能”や“会”に比べて使用上の違いが明らかなのである。よって,“能”と“会”を同時に扱わず，“能”と“可以”を共に扱うのは，最適な方法ではない。このように文法書によっては“能”と“会”を同じ課で扱っていないものも存在する。可能・可能性を表す助動詞“能”と“会”を切り離して教授の際に扱ってしまうことが使い分けによる誤用の起因ひとつであると言える。

2　“能”と“会”の使い分けに対する教授法

既に“能”と“会”の使い分けによる誤用の起因について言及したが，上述の起因が実際にどの程度影響しているのか検証するため，“能”と“会”を併記している文法書と個々に扱っている文法書を使って“能”と“会”の使用方法を教授し事後テストを行った。その結果,“能”と“会”を個々に教授した被験者28名のうち６点満点中，満点が６名，５点が４名，４点４名，３点８名，２点６名で，168点中108点となり，正解率は約64.3％に留まった。

また，“能”と“会”を並行して教授し事後テストを受けた被験者26名は，満点が15名，５点が６名，４点１名，３点２名，２点２名で，全体をみると156点中134点となり約85.9％の学習者が“能”と“会”の使い分けが可能であることが分かった。このように，双方を並行して教授すれば，学習者にとって可能を表す助動詞“能”と“会”の使い分けは，比較的容易であるということができる。つまり，現在通用されている文法書の説明を基に“能”がもともと備わっている能力を頼りにできるという可能を表す際に使われ，“会”は会得・習得してできる可能表現の際に使われるのだと提示し，例文をいくつか列挙しながら併記して教授すれば，学習者は使い分けができるのである。

表す意味が同じであっても，今回の研究対象である“能”と“会”のような使い分けが必要な助動詞を教授する際には，それらを併記して教えなければ，学習者はその違いに気付くことができずに容易に使い分けのミスを犯してしまうのである。

したがって，“能”と“会”の誤用を指摘する誤用集や文法書の中で最も多い誤用が双方の使い分けによるものであるとされているのは,教授をする際に“能”と“会”を別々に扱っているからだと考えられる。この使い分けの誤用を防ぐには，“能”と“会”の使用上の違いを明示するために，以下のようにそれらを並行して扱うことが重要なのである。

＜可能を表す助動詞＞

“能”もともとそれを達成する能力や条件があってできる
例）鸟能飞。
　　鳥は飛べる。≪作例≫
　　你早上能起来吗？
　　あなたは朝起きられますか。≪作例≫

“会”できなかったことを会得・習得してできる
例）我会说汉语。
　　わたしは中国語が話せる。≪作例≫
　　你会开车吗？
　　あなたは運転ができますか。≪作例≫

また，“会”の用法を明示する際に“会得”という日本語を用いることで「“会”＝“会得してできる”」という公式をインプットさせるということも有効である。つまり，日中両言語が「漢字を使用する言語」であることを言語習得に活かさない手はない。

Ⅳ　“能”と“会”の欠落の起因

既に０．で述べたように,日本人中国語学習者の可能・可能性を表す助動詞の誤用で“能”と“会”の使い分けの次にあげられるのは“能”や“会”の欠落による誤用である。この欠落による誤用について以下の３つの原因が考えられる。

１．補語
２．現在法で表す可能・可能性表現
３．条件文の主節

1　補語

ここでは，Ⅱで挙げたⅱ類～ⅲ類の「“能／会”＋動詞＋補語」の形で表す可能・可能性表現に対して考察を行う。以下は“听懂”・“听到”・“听见”・“看见”という「動詞＋補語」から構成されている例文である。

（例７）≪错误分析≫[6]
今では彼は北京方言さえ聞いてわかるようになった。
＊现在他连北京方言都 __ 听懂了。
　现在他连北京方言都 能 听懂了。

（例８）≪病句分析≫
彼女の歌声は村全体に聞こえる。（筆者訳）
＊她唱歌的声音全村都 __ 听到。
　她唱歌的声音全村都 能 听到。

（例９）≪1Q84≫
長い熱心な拍手だった。ブラヴォーというかけ声も時折聞こえた。
＊长久而热情的掌声，不时还 __ 听见喝彩声。
　长久而热情的掌声，不时还 能 听见喝彩声。

（例10）≪岩波≫[7]
猫は夜でも物が見える。
＊猫在夜里也 __ 看见东西。
　猫在夜里也 能 看见东西。

この補語は日本人中国語学習者にとって，とりわけ習得困難な問題であり，補語による表現は，文法書によっては詳しく解説されている。

刘月华（1980）は可能補語が留学生の学習上の難点になっている原因のひとつには，「留学生の母語に可能補語と直接対応するような表現をもつ言語が少ないことである。」と指摘している。実際に日本語の中にも中国語の補語と直接対応する表現が存在しないことが日本人中国語学習者の補語の習得の難点となっていることは言うまでもない。

中国語の動詞は補語を伴うことにより，動作の目標を得た・動作が実現したことを表しているが，これら到達を表す「動詞＋補語」の形で可能・可能性を表す際に，日本人中国語学習者はそれだけで可能・可能性を表していると認識してしまうために，助動詞“能”や“会”の欠落が生じるのである。

さらに，中国語は「動詞＋補語」の表現形式を非常に好む言語であり，中国語の可能補語もその「動詞＋補語」の形式で表現されている。しかし，中国語の動補構造は「動詞＋補語」の形だけでは使えず，“了”を伴うかあるいは助動詞を必要とする。日本人中国語学習者はそのうち現在未来を表す場合，「動詞＋補語」のそのままの形で使えると勘違いしてしまうため可能を表す助動詞“能”や“会”の欠落が生じてしまうのである。

加えて，日本語文の中に一段活用やカ変活用の未然形に「られる」を加えたもの，また可能動詞や自動詞による可能表現が存在している場合でも，述語に「動詞＋補語」構造がくることでそれだけで可能・可能性を表していると認識してしまうことにより，助動詞“能”や“会”の欠落につながる。

以下は「助動詞＋動詞＋結果補語」の形式で助動詞“能”や“会”が欠落傾向にある例文である。

【助動詞＋動詞＋結果補語“完”】
（例11）≪一歩≫
こんなにたくさんの料理を食べきれますか。
＊这么多菜你 __ 吃完吗？
　这么多菜你 能 吃完吗？

【助動詞＋動詞＋結果補語“懂”】
（例12）≪一歩≫
あなたは中国語の放送がきいてわかりますか。
＊你 __ 听懂中文广播吗？
　你 能 听懂中文广播吗？

【助動詞＋動詞＋結果補語“见”】
（例13）≪1Q84≫
音は聞こえない。空気はどろりとした液状になっている。聴き取れるのは，自らのソフトな心音だけだ。
＊他听不见声音。空气黏糊糊的液体。他 __ 听见的，只有自己柔嫩的心音。
　他听不见声音。空气黏糊糊的液体。他 能 听见的，只有自己柔嫩的心音。

（例14）≪1Q84≫
長い熱心な拍手だった。ブラヴォーというかけ声も時折聞こえた。
＊长久而热情的掌声，不时还 __ 听见喝彩声。
　长久而热情的掌声，不时还 能 听见喝彩声。

【助動詞＋動詞＋結果補語“到”】
（例15）≪1Q84≫
そこまでとっつきが悪く，つきあいらしきこともせず，文壇を軽侮するような言動を取り，それでよく原稿がとれるものだと人は首をひねるのだが，本人はさして苦労もなさそうに，必要に応じて有名作家の原稿を集めてきた。
＊给人的第一印象这样差，和人也没有像样的交往，又常常一开口就轻侮文坛，这样的人居然还 __ 讨到稿子！别人都百思不解，他本人却似乎不费力气，如有需要，著名作家的稿子也容易到手。
　给人的第一印象这样差，和人也没有像样的交往，又常常一开口就轻侮文坛，这样的人居然还 能 讨到稿

子！别人都百思不解，他本人却似乎不费力气，如有需要，著名作家的稿子也容易到手。

以下は「助動詞＋動詞＋方向補語」の形式で助動詞“能”や“会”が欠落傾向にある例文である。

【助動詞＋動詞＋方向補語“起来”】

（例16）≪1Q84≫

機会があるごとに天吾はまわりの人に尋ねてみた。思い出せる人生の最初の情景は何歳のころのものですかと。

＊只要一有机会，天吾就向周围的人打听：您 __ 回忆起来的人生最早的情景是几岁时的事？

只要一有机会，天吾就向周围的人打听：您 能 回忆起来的人生最早的情景是几岁时的事？

【助動詞＋動詞＋方向補語“出”】

（例17）≪1Q84≫

読字障害を持った少女が，こんなきちんとした文章を書けるのは不思議じゃないか。

＊有阅读障碍的少女，__ 写出这样扎实的文章是否有点不自然。

有阅读障碍的少女，能 写出这样扎实的文章是否有点不自然。

（例18）≪1Q84≫

ヤナーチェックの『シンフォニエッタ』の冒頭部分を耳にして，これはヤナーチェクの『シンフォニエッタ』だと言い当てられる人が，世間にいったいどれくらいいるだろう。

＊只听个开头，就 __ 一口说出这是雅纳切克的《小交响曲》的人，世间究竟有多少？

只听个开头，就 能 一口说出这是雅纳切克的《小交响曲》的人，世间究竟有多少？

2　現在法で表す可能・可能性表現

Ⅱで述べたように，日本語の可能・可能性表現は，現在を表す動詞で未来のことを表現する現在法を用いることができる。

一方，中国語は現在法で可能性を表すことができず，未来の可能・可能性を表す場合には必ず助動詞を加えなければならない。

また，日本語の可能性を表す表現には，言い切りの形に「…だろう」や「…でしょう」など加えた有標識の表現が挙げられるが，日本語の可能性を表す表現には無標識のもの，つまり「…だろう」や「…でしょう」の言い切りの表現がなく述語動詞のル形のみで表される表現も存在する。この結果，可能表現における現在・未来を表す表現の差異が生じることにより，日本人中国語学習者が可能・可能性を表す際に助動詞“能”や“会”の欠落が生じるのである。

以下は，日本語の動詞が「ル形」の形を取り未来の可能・可能性を表すことができ，かつその可能・可能性表現が有標識である例文である。この「…だろう」や「…でしょう」などの標識が日文中に存在する場合は，必ず“能”や“会”を動詞あるいはVR構造の前に置く必要があると強調し教授すれば，日本人中国語学習者の助動詞の欠落の起こる可能性は比較的低くなる。

（例19）≪白水社≫[8]

間もなくよいニュースを耳にするでしょう。

＊不久你就 __ 听到好消息。

不久你就 会 听到好消息。

（例20）≪1Q84≫

書いたものはなるたけ捨てずにとっておくといい。あとで役に立つかもしれないから。

＊写出的东西尽量收好，不要扔掉。以后也许 __ 派上用场。

写出的东西尽量收好，不要扔掉。以后也许 能 派上用场。

また，以下の例のように「…だろう」や「…でしょう」などの標識が日文中に存在する場合でも，日本人中国語学習者が中国語文の中に語気助詞の“吧”を置く場合は，この“吧”が「…だろう」や「…でしょう」に対応すると認識してしまう事により，助動詞“能”や“会”の欠落が生じやすくなると考えられる。

（例21）≪错误分析≫

これまでの努力はきっといい結果をうむだろう。

＊以前的努力一定 __ 产生好的结果吧。

以前的努力一定 会 产生好的结果吧。

（例22）≪错误分析≫

今後中国に留学に行く日本の学生は増えるだろう。

＊将来去中国留学的日本学生 __ 增加吧。

将来去中国留学的日本学生 会 增加吧。

（例23）≪1Q84≫

道路公団の細かい規則がどうなっているのか，私にもよくわかりません。しかし誰に迷惑をかけることでもなし，大目に見てもらえるのではないでしょうか。

＊道路公团的详细规则是怎么规定的，我也不清楚。但

这样做并不 __ 给别人带来不便，大概可以容忍吧。
道路公团的详细规则是怎么规定的，我也不清楚。但
这样做并不 会 给别人带来不便，大概可以容忍吧。

以下は，日本語で現在・未来で「ル形」の形を取り未来の可能・可能性を表すことができ，かつその可能・可能性表現が無標識である例文である。この「…だろう」や「…でしょう」などの標識が文中に存在しない場合は，日本人中国語学習者の助動詞の欠落の起こる可能性は高くなる。

(例24) ≪1Q84≫
「もちろんそのとおりだけど」とあゆみは言った。「でも私にとってはずいぶん大事なことなの。子供のころからずっとそうだった。いつもいつも注文したあとで『ああ。ハンバーグじゃなくて海老コロッケにしとけばよかった』と後悔するの。青豆さんは昔からそんなにクールだったわけ？」
＊“当然。”亚由美说，“但对我来说是一件大事。从小时候起我就是这样，总是点完菜就 __ 后悔，‘哎呀，要是不点汉堡牛肉饼，而是点油炸虾肉饼多好’之类的。你从小就是这么醋吗？”
“当然。”亚由美说，“但对我来说是一件大事。从小时候起我就是这样，总是点完菜就 会 后悔，‘哎呀，要是不点汉堡牛肉饼，而是点油炸虾肉饼多好’之类的。你从小就是这么醋吗？”

(例25) ≪1Q84≫
そのとおりかもしれない。でもつっかえつっかえ読み終えたとき，あとにしんとした手応えが残ります。(残る)
＊如果有人说它还没达到这样的水平，或许也对。不过你磕磕巴巴地读完它，肯定 __ 留下沉静的感受。
如果有人说它还没达到这样的水平，或许也对。不过你磕磕巴巴地读完它，肯定 会 留下沉静的感受。

(例26) ≪1Q84≫
「水に放り込んで浮かぶか沈むかみてみろ。そういうことか？」
＊“把她丢到水里，看她 __ 浮起来还是沉下去。你是这个意思吗？”
“把她丢到水里，看她 会 浮起来还是沉下去。你是这个意思吗？”

(例27) ≪1Q84≫
何が起こるか予測がつかない。
＊究竟 __ 发生什么事，无从预见。
究竟 会 发生什么事，无从预见。

このような現在法で表す日本語の可能性表現を中国語で表現する際に助動詞“能”や“会”が欠落するといったケースは，今回の考察によって明らかとなった起因の中で最も誤用傾向の強いものであるといえる。

3　条件文の主節

中国語の条件文の主節においても未来の可能・可能性を表す表現は，必ず助動詞“能”や“会”を動詞の前に加える必要がある。先に述べたように，日本語の可能性を表す表現には「…だろう」や「…でしょう」などが挙げられ，これらは可能・可能性を表す表現であるか否かという判断材料になる有標識の表現である。しかし，日本語の可能性を表す表現には無標識のものも多く存在するという点に着目する価値がある。これら日本語の未来の可能・可能性を表す表現に標識がないケースが存在するという言語事実から，日本人中国語学習者が助動詞“能”や“会”は不要だと認識してしまうことによって可能・可能性を表す“能”や“会”が欠落してしまうのである。

以下で中国語と日本語の条件文について整理し，日本人中国語学習者が条件文の主節において可能・可能性表現を表す際に，助動詞“能”や“会”は不要だと認識してしまう原因を探りたい。

1）日本語の条件文

日本語文法において，条件を表す接続形式とみなされている言語表現には以下のようなものがある。

a．[…動詞語幹＋（r）eba]（「ば」）
b．[…動詞語幹＋過去時制（ta）＋ra]（「たら」）
c．[…動詞語幹＋非過去時制＋to]（「と」）
d．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋nara]（「なら」）
e．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋no＋nara]（「のなら」）
f．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋no＋dear＋eba]（「のであれば）
g．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋no＋dat-ta＋ra]（「のだったら」）
h．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋no＋da＋to]（「のだと」）
i．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋to＋sur-eba]（「とすれば」）
j．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋to＋shi-ta＋ra]（「としたら」）
k．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋to＋sur-u＋to]（「とすると」）

l．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋to＋sur-u＋nara]（「とするなら」）
m．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋to＋shi-ta＋nara]（「としたなら」）
n．[…動詞語幹＋te＋wa]（「ては」）
o．[…動詞語幹＋非過去時制／過去時制＋no＋de＋wa]（「のでは」）

2）中国語の条件文

中国語では日本語の条件表現に対応する形式は，主に“条件複文”と“仮定複文”の二種類に分類されており，関連詞と呼ばれる接続詞や副詞等によって接続関係を表す。

中国語文法において，条件を表す接続形式とみなされている言語表現には以下のようなものがある。なお，話し言葉では多くの場合，接続関係を表す関連詞が必ずしも用いられる訳ではない。したがって，発話者の表現する意味を文脈情報に考慮し立体的に文の意味を組み立て理解する必要が生じてくる。この関連詞を用いない形式も仮定複文のひとつに含む。

【従属節】　　【主 節】

a．只要……，　　就……。
例）只要下功夫，你就一定能学会。≪小学館≫[9]
努力さえすれば，君は必ず習得できる。

b．只有……，　　才……。
例）只有这样做，才能解决问题。≪大修館≫[10]
こうしてこそ，初めて問題が解決できる。

c．除非……，　　才……。
例）除非你去求他，他才能答应。≪小学館≫
君が行って頼まない限り，彼は承知しない。

d．无（不）论……，　　也／都……。
例）她说无论发生什么事情她都会和我保持联系。≪一歩≫
彼女はどんなことが起こっても，わたしと連絡を取り続けると言った。

e．不管……，　　也／都……。
例）不管队员还是非队员，他们的回答，都会是肯定的。≪大修館≫
隊員であるか非隊員であるかにかかわりなく，彼らの返答はすべて肯定的であるはずだ。

f．如果……，　　就……。
例）如果你不用功，就会留级。≪小学館≫
もし君がしっかり勉強しないなら，留年でしょう。

g．要是／若是……，　　就……。
例）这事要是叫他知道了，一定会发生争吵。
このことがもし彼に知られたらきっと喧嘩が起こる。

h．倘若／假若……，　　就……。
例）倘若战争爆发起来，我们一定会取得胜利的。≪大修館≫
もし戦争が勃発したらわたし達は必ず勝利を得ることができる。

i．……，就……。
例）从正面仔细观察她的脸，就会发现两只耳朵的大小相差很多。≪1Q84≫
正面から仔細に顔を観察すれば，左右で耳のかたちと大きさがかなり異なっていることがわかるはずだ。

j．関連詞を用いない
例）经常参加体育活动能提高我们的健康水平。≪病句分析≫
頻繁にスポーツ活動に参加すれば，私たちの健康水準はあがる。（筆者訳）

a～eは条件複文で，主にaのような「pでさえあればq」という“十分条件”と，b～cの「pである場合に限ってq」というような“必要条件”，またd～eのような「pであってもそうでなくても（に関わらず）q」という“無条件”の三種類の論理関係を表す。f～jは仮定複文で，一般的に「pならばq」という条件関係を表している。

このように，日中の条件文の形式を比較してみると，日本語の条件文は従属節に接続形式があるのみで，中国語は従属節及び主節に関連詞が伴うか，或いは主節のみに副詞の“就”，“才”等を伴うか，もしくは従属節にも主節にも関連詞を伴わない形式が存在する（とりわけ話し言葉において）ことがわかる。

日本語の条件文では，従属節に接続詞があることで主節に事物の実現を表す表現が置かれる。この日本語の可能・可能性を表す条件文を中国語で表現する際に日本人中国語学習者は従属節に関連詞を組み込むだけで，主節で可能・可能性を表せると認識してしまうため，主節に可能・可能性を表す助動詞“能”や“会”の欠落が生じ

るのである。以下がその例である。

例28）≪作例≫
一生懸命勉強すれば、大学に受かる。
＊只要下功夫，你 ＿ 考上大学。
　只要下功夫，你 能 考上大学。

また，以下の例をみてみたい。

例29）≪病句分析≫
互いに助け合い、学び、団結し仲良く、ともに前進する姿勢があってこそ、我々は立派に事をこなせる。（筆者訳）
＊有了互相帮助、互相学习、团结友爱、共同进步的作风，我们才 ＿ 搞好工作。
　有了互相帮助、互相学习、团结友爱、共同进步的作风，我们才 能 搞好工作。

例30）≪1Q84≫
いろんな出来事の前後左右の関係性をつかんでしまえば、年号は自動的に浮かび上がってくる。
＊只要把握各种事情的前因后果，来龙去脉，年号就 ＿ 自动浮现出来。
　只要把握各种事情的前因后果，来龙去脉，年号就 会 自动浮现出来。

これら文中の“一定”や“才”，“就”の副詞との組み合わせは，条件文の主節に頻繁に用いられている固定化したものと捉えることができるのだが，日本人中国語学習者の助動詞“能”や“会”の欠落により非文とされる例の中には，このように“就”や“才”，“一定”等の副詞の後ろ，そして動詞の前に来るはずの助動詞が抜けているのが多くみられる。これは，条件文における副詞“就”や“才”が主節の事態の実現と時間が関連していることを表しており，その事態を実現するまでの時間の長さに関わらず，事態の実現が可能であるか否かという点に重点を置くことで可能・可能性を表す助動詞“能”や“会”の欠落が生じるのである。

また，以下の例をみてみたい。

例31）≪小学館≫
このことがもし彼に知られたら、きっと喧嘩が起こる。
＊这事要是叫他知道了，一定 ＿ 发生争吵。
　这事要是叫他知道了，一定 会 发生争吵。

この文中における副詞“一定”は，発話者の主観的な判断を表現している。この“一定”には，従属節の条件を満たすことができれば主節の事態が“確実に実現する”という意味が含まれている。事態の実現が可能であるか否かという点に重点を置くことで助動詞“能”や“会”の欠落が生じてしまうのである。

Ⅴ　おわりに

以上，日本人中国語学習者の助動詞“能”と“会”の欠落による誤用の原因について考察を行ってきた。

まず“能”と“会”の使い分けによる誤用に関してだが，この使い分けの誤用を防ぐには，現在通用されている文法書の説明を基に“能”がもともと備わっている能力を頼りにできるという可能を表す際に使われ，“会”は会得・習得してできる可能表現の際に使われるのだと提示し，例文をいくつか列挙しながら“能”と“会”を同時に教授する必要がある。併記して教えなければ，学習者はその違いに気付くことができずに容易に使い分けのミスを犯してしまうのである。また，“会”の用法を明示する際に“会得”という日本語を用いるのも有効である。つまり，「習得→会得→“会”」と連想させると使い分けが容易になるのである。

次に“能”と“会”の欠落による誤用について，今回の考察で得た３種の起因の中には互いに関連し合い，複合的な問題になっているものがある。つまり，可能・可能性を表す助動詞が欠落する傾向にある文の中には，これらの起因が２つ，または３つと複数の起因が関係し波及しているケースが多く存在しているということである。本稿の文頭にて挙げた例文以外にも以下のように，条件文であるということに加え，前件の述語が「動詞＋補語」構造であることが起因し可能を表す助動詞“能”が欠落してしまうものが存在する。

（例32）≪病句分析≫
彼女の病気は数日もすれば治ると思っていたが，一ヶ月過ぎてからやっと治った。
＊我以为她的病过几天就 ＿ 治好，谁知过了一个多月才完全治好了。
　我以为她的病过几天就 能 治好，谁知过了一个多月才完全治好了。

起因が複合的に存在することにより可能性を表す助動詞“能”や“会”はより欠落の傾向が高まると考えられ，とりわけ今回の考察において明らかとなった起因のなかでも，未来の可能・可能性を表す表現（条件文を含む）と中国語の補語が中国語文で使われる際に日本人中国語学習者の助動詞“能”や“会”がより欠落しやすい傾向にあることが分かった。

これら助動詞“能”や“会”の欠落によるミスを防ぐ

ためには，今回挙げた助動詞の欠落傾向の強い誤用例を教授の場で示し，可能・可能性を表す際に助動詞を伴わなければならないことを学習者に認識させる必要がある。

現在通用している文法書では，可能・可能性を表すことのできる形式について，「助動詞“能”や“会”＋動詞＋目的語（＋付加成分)」の構造と可能補語構造の２つのみを記述するだけに留まり，さらに可能・可能性を表す助動詞“能”や“会”と可能を表す可能補語，加えて動作の結果を表す結果補語と動作の方向を表す方向補語との関連性についてほとんど言及していない。実際には「助動詞“能”／“会”＋VR」の形式，つまり「助動詞＋結果補語」あるいは「助動詞＋方向補語」の構造でも可能・可能性を表すことができる。これらをまとめると，可能・可能性表現は，以下の４つの形式が成り立つ。

１）助動詞“能”／“会”＋動詞
２）可能補語（V＋得／不＋R）
３）助動詞“能”／“会”＋結果補語
４）助動詞“能”／“会”＋方向補語

１）の助動詞「“能”／“会”＋動詞」と２）の可能補語（V＋得／不＋R）の形式に加えて，３）の「助動詞“能”／“会”＋結果補語」と，４）の「助動詞“能”／“会”＋方向補語」についても文法書で言及する必要があるのだ。上記のように形式を類別で明示することで可能・可能性表現をタイプ別で認識することが可能になる。更に，未来の可能性を表す際には必ず助動詞“能”あるいは“会”を動詞の前に置く必要があることに加えて，条件文の主節においても必ず“能”か“会”と伴わなければならないことを強調して教授する必要がある。

今回の考察は紙幅の都合もあり，助動詞“能”と“会”の使い分け及び欠落による誤用の起因についての考察が主となったが，今後は可能・可能性を表す上記４つの形式を中国語教育の中でどう効率的かつ有効的に取り込むか考察を重ね，教授法の確立を目指したい。

引用文献（用例）

日本語

荒川清秀（2003）『一歩すすんだ中国語文法』，大修館書店．≪一歩≫

伊地知善継（2002）『中国語辞典』，白水社．≪白水社≫

倉石武四郎（2001）『日中辞典』，第二版岩波書店．≪岩波≫

村上春樹（2009）『1Q84』，新潮社．≪1Q84≫

中国語

佟慧君（1986）『外国人学汉语病句分析』，北京语言出版社.≪病句分析≫

村上春樹 施小炜・訳（2010）『1Q84』，南海出版社.≪1Q84≫

吕叔湘主编（1999）『现代汉语八百词（增订本)』，商务印书馆．≪八百词≫

卢 涛（2006）「汉语助动词使用错误分析」，『広島大学大学院総合科学研究科紀要Ⅰ』．≪错误分析≫

参考文献

日本語

荒川清秀（2003）『一歩すすんだ中国語文法』，大修館書店.

愛知大学中日大辞典編纂所（2010）『中日大辞典 第三版』，大修館書店.

井島正博（1991）「可能文の多層的分析」，『日本語のヴォイスと他動性』，仁田義雄編，くろしお出版.

大河内康憲（1997）『日本語と中国語の対象研究論文集』，くろしお出版.

奥田靖雄（1986）「現実・可能・必然（上)」，『ことばの科学』，言語学研究会編，むぎ書房.

郭春貴（1995）「仮定複文における関連副詞“就”について」，『広島修大論集』，第36号第２号.

郭春貴（2001）『誤用から学ぶ中国語』，白帝社.

影山太郎（1996）『動詞意味論－言語と認知の接点－』，くろしお版.

香坂順一・宮田一郎共著（1980）『現代中国語作文』，光生館.

周国龍（2014）「可能表現「会」と「能」の使い分けについて」，鈴鹿国際大学紀要Campana20，1-10.

鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』，むぎ書房.

張威（1998）『結果可能表現の研究－日本語中国語対照研究の立場から』，くろしお出版.

藤堂明保（1979）『中国語概論』，大修館書店.

中島悦子（2007）『日中対象ヴォイス　自・他の対応・受身・使役・可能・自発』，おうふう.

西川和男（2007）「日本語と中国語の違いからみた日本人に対する補語の教授法について」，『日中対照言語学研究論』，集和泉書院.

日中対照言語学会編（2008）『日本語と中国語の可能表現』，白帝社.

日本語教育学会(1982)『日本語教育事典』,大修館書店.

日本語教育学会・水谷修（2005）『新版 日本語教育事典』，大修館書店.

望月圭子（2009）「中国語を母語とする上級日本語学習者によるヴォイスの誤用分析－中国語との対照か

ら－」,『東京外国語大学論集78』.
森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』,明治書院.
安本真弓（2009)『現代中国語における可能表現の意味分析』，白帝社.
山田留里子（2008)「可能補語－何を教えるか」，日中対照言語学会編,『日本語と中国語の可能表現』，白帝社.
姚艳玲（2011)『日汉自／他动词对比研究－日本語と中国語のおける自・他動詞表現の対応に関する対照研究－』，大連理工大学出版社.
来思平・相原茂共著（1993)『日本人の中国語誤用例54例』，東方書店.
呂才楨他（1986)『日本人の誤りやすい中国語表現300例』，光生館.
呂雷玲（2006)「使用範囲から見た日中両言語の可能表現」,『言葉の科学19』,名古屋大学言語文化研究会.
C．E．ヤーホントフ（1987)『中国語動詞の研究』，白帝社.
Jaconbsen,W．H(1989)「他動性とプロトタイプ理論」,『日本語の新展開』，くろしお出版.
中国語
邓守信（1986)「汉语动词的时间结构」,『第一届国际汉语教学讨论会论文选』，北京语言学院出版社.
郭 锐 （1993)「汉语动词的过程结构」,『中国语文』，第1993　6期.
陆 俭明（2003)『汉语作为第二语言教学中的语法文学和语法问题』，北京大学出版社.
刘月华（1980)「可能补语用法研究」,『中国语文』，第1980　4期.
刘月华（1983)『实用现代汉语语法』，外语教学与研究出版社.
邢福义（2001)『汉语复句研究』，商务印书馆.
朱德熙（1982)『语法讲义』，商务印书馆.

注

（1）荒川清秀（1998)『中国語ステップ・バイ・ステップ』白水社の略称である。
（2）荒川清秀（2003)『一歩すすんだ中国語文法』大修館書店の略称である。
（3）村上春樹 施小煒訳（2010)『1Q84』南海出版社の略称である。
（4）佟慧君（1986)『外国人学汉语病句分析』北京语言出版社の略称である。
（5）吕叔湘主编（1999)『现代汉语八百词（增订本)』商务印书馆の略称である。
（6）卢 涛（2006)「汉语助动词使用错误分析」の略称である。
（7）『日中辞典』第二版（2001）岩波書店の略称である。
（8）『中国語辞典』（2002）白水社の略称である。
（9）『中日辞典』第二版（2003）小学館　商务印书馆の略称である。
(10)『中日大辞典』第三版（2010）大修館書店の略称である。

Misuses of the Potential Auxiliary Verbs “能” and “会” by Japanese Students of the Chinese Language and Teaching Methods and Textbooks for Resolving the Problem

MATSUDA Haruna

Abstract

This paper elucidates the causes of misuses that are brought about by misapplying the potential auxiliary verbs “能” and “会,” and proposes a teaching method for resolving such problems. Moreover, the paper examines the causes of misuses which occur by omitting the auxiliary verbs “能” and “会.” The examination is done by means of comparing Japanese and Chinese expressions that represent potentiality.

The causes of misuses that are brought about by misapplying the potential auxiliary verbs “能” and “会” are as follows: inappropriate explanation regarding the usage of “能” and “会” in popular grammar books, no mention of the relations with the VR structure. In addition, it is assumed that language teachers’ handling of “能” and “会” is related to the causes of misuses.

Three causes of misuses which occur by omitting the auxiliary verb “ 能 ” and “ 会 ” can be recognized as follows:

1. A complement
2. Expressions that indicate potentiality in the present and future tenses
3. A main clause of conditional sentences

In recognizing the actual situation of Chinese language education and teaching the usage of “能” and “会,” I refer to differences and similarities between Chinese and Japanese in order to overview the expressions that indicate potentiality in chapter 2. In chapter 3, I refer to the causes of misuses that are brought about by misapplying the potential auxiliary verbs “能” and “会” and propose a teaching method. In chapter 4, I refer to the causes of misuses which occur by omitting the auxiliary verbs “能” and “会.”

Keywords: auxiliary verbs, expressions for potentiality, misuses, teaching methods